

ポートフォリオ運用に「ロボアド・サービス」は有効か

●ロボアドとは

ロボアド(ロボアドバイザー)・サービスとは、インターネットを通して簡単な質問に答えると、自動的に投資家に合った運用方法を提案してくれるサービスをいう。高度な資産運用アルゴリズム(問題解決のための処理手順)や人工知能(AI)を利用して、一人一人に合った最適な資産運用を提供できるというのがセールスポイントである。

パソコンだけでなく、スマートフォンにも対応しているので、いつでも、どこでも手軽にサービスを利用できる。このため、金融機関等の窓口まで相談に行く時間が取れない現役世代や、ネットの利用に慣れている若い世代には魅力的なサービスだと思われる。

いち早くサービスが始まった米国では、市場規模が100兆円に迫っており、2年後の2020年末には220兆円規模にまで拡大するとの予測もある(ATカーニー社による予測)。日本では2014年に始まったといわれており、2016年以降に急速にサービス提供会社が増えた。現在では、ロボアド専門の会社以外に、一部の銀行や証券会社などからもサービスが提供されている。

●アドバイス型と投資一任型

ロボアドを利用するにあたっては、最初にインターネットを通して、年齢、年収、現在の貯蓄残高、毎月の積立額、運用目的といった簡単な質問に答える。すると、投資家の属性、あるいはリスク許容度等に基づいた、その人に合った運用方法が提示される。

その際、資産配分割合等の助言だけをしてくれる「アドバイス型」と、実際の運用も任せる「投資一任型」の2つのタイプがある。

アドバイス型では、資産配分とともに、具体的な運用手段としてイン

デックスファンドやバランス型投信などが提示されるが、投資信託の実際の購入手続きは投資家自身が行う必要がある。アドバイス内容だけを見る場合は、手数料等はかからない。

一方、投資一任型では、ETF(上場投資信託)やインデックスファンドを使った運用が行われるのが一般的である。投資信託の購入やリバランスなどを全て任せるので、投資家は運用資金を入金するだけでよい。最低投資金額は1万円や10万円などと各社によって異なるが、少額の資金で利用できる。投資一任手数料は預かり資産残高に対し年率1%程度となっている。

投資一任型のロボアドはラップ口座と似たサービスだが、ロボアドはインターネットを通しての取引となるため、ラップ口座よりコストが安く、最低投資金額もラップ口座より大幅に小さいという特徴がある。

●資産配分の重要性

資産運用を考える場合、非常に大事なものは、どういった資産にどういった割合で投資するのかという「資産配分の決定」である。各種の研究によれば、長期の投資成果のほとんどは資産配分によって決まってくる。

個人の場合は、まず今後のライフプラン等を踏まえて、預貯金等の安全資産で運用する部分と、株式や債券などの値動きのあるリスク資産で運用する部分を適切に決定する。

次に、リスク資産について、国内株式、先進国株式、新興国株式、国内債券、先進国債券、新興国債券、国内REIT(不動産投資信託)、海外REIT、金などへの投資比率を決める。ロボアドは、このリスク資産の運用部分について提案してくれるサービスになる。この後で、具体的な投資商品を決めるのが間違いの少ない運用方法になる。

投資理論によれば、投資家が運用

で取れるリスクを決定すれば、一番高いリターンが期待できる最適な資産の組み合わせがただ1つに決まる。ロボアドでは、いくつかの質問によって投資家が取れるリスクを決め、それによって最適な資産配分を提示していることになる。

●ロボアドとの付き合い方

理論上はその投資家にとって最適な資産配分は1つに決まるが、実際には、各社によって顧客が取れるリスクをどこまで細かく設定するかや、アルゴリズムなどが異なる。質問内容も各社によって異なっている。このため、同じ人でも、各社から提案される運用内容には違いが生じる。

したがって、いくつかの会社のロボアドで、資産配分の提案を比較することをお勧めしたい。その際、自分にとって一番納得できる、あるいは違和感が少ない運用内容になっているかがポイントになる。

相場変動によるリバランス等は自分で実行するというのであれば、資産配分の提案だけを参考にすればよい。投資信託の売買等も全て任せたいということであれば、投資一任型のサービスを利用することになる。

なお、現状のロボアドでは、リスク資産での運用内容を提案するのが基本である。安全資産にいくら、リスク資産にいくら投資するかは投資家が決める必要がある。また、リスク資産の一部だけを提案どおりに運用し、残りの部分は違った運用をすると、必ずしも最適な運用にはならない。このため、ロボアドだけではなく、専門家に相談したいというニーズも予想される。

実際、米国では、ロボアドだけで運用を完結させるのではなく、相談できる担当者について、担当者を通してロボアド・サービスを利用するのが主流となっている。将来的には日本においても「人+ロボアド」というスタイルが主流になる可能性もある。

(クルー 目黒政明)